【要旨】

日本の障害者人口数は年々増加傾向にあるが、とりわけ重度・最重度知的障害者においても、より支援度及び専門度が高度化・多様化するニーズが増加してきていることがいえる。その重度・最重度知的障害者が入所利用する障害者支援施設において、生活支援員は、就労を継続していく中で様々なその継続を困難にする身体的・肉体的負担となる要因に直面している。離職者も出てくるその環境の中でも就労を継続できているのは、どんな要因によるものであろうか。そこで本研究では、生活支援員に焦点をあて、半構造化インタビューを実施し、分析は M-TGAを用いて行った。分析の結果、以下の要因が抽出された。[障害者と関わった経験がもとになり就労の契機となったこと][多職種からや保有資格に関わらず生活支援員として就労したこと][労働形態や労働条件、自身の状況による就労の契機]という3つの[概念]で構成される《カテゴリー：就労継続に繋がる就労の契機》、[福祉におけるミクロ：利用者の特性による支援の困難][福祉におけるミクロ：生活支援員同士のコミュニケーション不足による支援の困難][福祉におけるミクロ：人員及び配置不足][福祉におけるメゾ・マクロ：施設や地域、国や行政の障害への理解不足による支援の困難]という4つの[概念]で構成される《《カテゴリー：就労継続を困難にする身体的・肉体的負担となる要因》と【コアカテゴリー：人員不足による配置不足が就労継続を困難にする要因】、これに対する[利用者と支援者間の関係性の取れたふれあい][支援員同士による協調的人間関係の構築][福祉専門職としての職業意識][仕事の工夫により支援の質の向上を目指す][自己成長による自己肯定感や自己有用感の獲得][ワークライフバランスの重視により就労継続への活力を得る][リフレッシュする時間の確保により就労継続への活力を得る] という7つの[概念]で構成される《カテゴリー：就労継続に対するモチベーションの維持向上への要因》と【コアカテゴリー：就労継続による継続的な支援こそが重度知的障害者であっても何らかの形でコミュケーションが取れるようになる】が生成された。これらの分析結果により、高度化・複雑化する重度・最重度知的障害者が抱えるニーズへのより適切な対応への寄与、そして「人材不足」と言われ続けている福祉人材を量・質の両面から確保できる社会の在り方を考えることに寄与することができると考えられる。

【キーワード】 重度知的障害者、障害者支援施設、生活支援員、就労の継続
モチベーションの維持向上、半構造化インタビュー、M-GTA